



第52回安全委員会が8月19日に開催されました。

今年度2回目の定例安全委員会が先日開かれました。今回は、令和2年6月2日から令和2年7月31日までに起きた11件のケースの報告と審議を行いました。前回に引き続いて中高生の暴力が大半を占めており、その結果、**嚴重注意を行なった児童が1名、安全委員会からの申し送りを行なう児童が1名**おりました。

しかし、コロナ禍にあっても短い夏休みの中で子ども達が少しでも楽しめるようにと各ユニットで創意工夫したプログラムは子ども達にとって楽しい夏の思い出となったことについての報告を行ないました。

Aさんの嚴重注意

1月の嚴重注意以降落ち着いて生活しているように見えたAさんですが、休校明けの6月より立て続けに暴力を振ってしまい、生活も立ち行かない状況であったこともあり、今回2回目の嚴重注意の実施に至りました。

前回の反省を踏まえ、7月より嚴重注意の準備を進めていたAさんは練習の成果もあってか、以前より自分の置かれている状況を理解し向き合い、1時間近くに及んだ嚴重注意も最後まで集中を切らす事なく取り組むことが出来ておりました。

Aさんの課題は暴力をしないことはもちろんですが、同時に基本的な生活習慣を取り戻し、周囲と正しくコミュニケーションを取れるようになることにあるでしょう。

Aさんがこれからも自身の課題と向き合い、成長をしていく為にも今しばらく皆様のお力をお貸し頂ければと思います。

Aさんの取り組みの軌跡

- 1.毎日の振り返り（ユニット職員と取り組む）
- 2.嚴重注意に向けた練習（自己理解を促す）
- 3.イライラする相手に近づかない・暴力嫌がらせをしない

約1カ月にわたり、以上の3点に取り組みました。

一度でも疎かにしてしまうと、その後軌道に戻すのが難しいAさんではありましたが、時には好きなお菓子やポスターの力も借りながら職員と頑張り、嚴重注意の日まで暴力を振わずに生活することが出来ておりました。嚴重注意後も、職員との面接の中で、振り返りの継続とピンチを乗り越える為の方法探しに取り組んでいく事を確認したAさん。自身の生活が「黄色信号」であることを自覚し、今後も正しい生活のルーティーンを身に付けていけるように頑張りたいです。

コロナ禍における生活

コロナ禍における生活スタイルに適応してきた児童がいる一方、今回の暴力ケースを見てみると、もとより社会適応に課題を多く持つ児童のトラブルが集中して起きている様子が見て取れます。

学校の登校日や休日が変則的になる。お友達と遊ぶ機会が無くなる。買い物等の外出は極力控える等、私見になりますが上記の課題を持つ児童はこれまでの当たり前が通用しないことの影響（ストレス）を少なからず受けていたように感じます。

児童の問題行動に対して、安全委員会は暴力という側面からのアプローチが主となりがちですが、場当たりの対応には限界がありますし、安全委員会における対応はそこにだけ留まるものではありません。

人類がコロナという未曾有の脅威にさらされている今だからこそ、職員各々が知恵を出し合い、児童の問題行動を分析し、次の一手を創造していく取り組みが必要なのではないでしょうか。

その様な意味では今回嚴重注意を行ったAさんの取り組みが、崩れた彼女の生活を立て直すための枠組みの第一歩となり得ればと考えております。

その他

今年は全国の他の安全委員会導入施設においてもコロナの影響で迅速な暴力対応が難しいケースがあるようです。当園としましても、3密は避けつつ、それでも安全委員会との連動活動は密に行えるように取り組んでいきたいと思っています。

今回、日々の振り返りをAさんで行う事で、暴力をしない生活を頑張っている事の評価を間近に出来た事、嚴重注意に向けての練習を行う事で、児童の暴力に対しての想いを聴くことが出来とても良かったと感じています。今後も星取表等を活用しながら暴力だけではなく児童らの頑張りを評価できる機会を増やしていきたいです。

保育士 奥泉美希